

1 学校運営の方針

1 第二中学校の教育理念（ミッション）

これからの社会に生き、共によりよい社会を創り出すことができる人づくり

第二中学校は、生徒みんなが自分自身をよく理解し、他者とともに在ることを大切に、協力して、未来の社会を自分だけでなくみんなが幸せになれるよう、良くしていくことを目指しています。そのための人を育てることを、第二中学校の教育理念（ミッション）としています。

つまり、一言でいうならば、「未来を担う人材を育てる」ことになります。そのためには、予測ができない社会の変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程をとおして、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる人を育成する。何事に対しても「受け身で応じる」のではなく、「自ら動く力」を身に付けた生徒を育てていきたいと考えています。

2 学校経営の基本

【一ノ木戸ポプラ学園が目ざす子ども】

「ゆたかなかわりを求めて 夢や希望をもち 未来をひらく子ども」

【教育目標】

「互いに敬愛しあい たくましく 実践する生徒」

【目指す生徒の姿】

「他者とのかわりの中で 自信を持ちたくましく 夢の実現に向けて挑戦する生徒」

- (1) 自らを律し、主体的に考え、判断・決定し、行動できる生徒
- (2) 粘り強く学び続け、共に新たな価値や新たな姿を生み出せる生徒
- (3) 多様性を尊重し、共に支え合い、高め合い、共にやり遂げる生徒

【目指す学校の姿】

「すべての人の笑顔があふれ、一人一人が光輝く学校」

- (1) 確かな学力を保証し育成する学校
- (2) 規範意識、思いやりなど豊かな心を育てる学校
- (3) 保護者や地域から信頼される学校

【目指す教師の姿】

「人間性を磨き 学び続ける教師」

- (1) 生徒を認め、励まし、可能性を伸ばす教師
- (2) 一人の人間として、人間性を磨き、高める教師
- (3) 自分、生徒、同僚、保護者や地域から学ぶ教師
- (4) 高い同僚性及び協調性のある教師確かな学力を保証し育成する学校

3 第二中学校のスローガン

**未来を自ら創り出す、一歩ずつ、ともに成長する
～ 自律 創造 協働 ～**

生徒に自己責任や創造性を促し、将来の成功に向けて積極的に、一步一步、仲間や先生方、地域の方がと共に取り組み成長する。

4 指導の重点

「主体的に動く生徒を育てる」

自ら課題を見つけることができる。自ら考え、判断することができる。自ら行動することができる。

自らを振り返ることができる。

そのために、

○問題（課題）解決型の教育活動をすすめる

→授業のみならず、すべての教育活動を「問題（課題）解決型」で繋ぐ

知識の暗記などのような生徒が受動的な学びではなく、自ら問題を発見し解決する能力を養う教育活動を進める。

○キャリア教育・アントレプレナーシップ教育を軸とした教育活動を進める

→「総合的な学習の時間」を軸に、地域と連携した、二中の「キャリア教育・アントレプレナーシップ教育」を進める。

○一人一人の持つ可能性を引き出し、伸ばす教育活動を進める

→「個別最適な学びの実現」…生徒の学習状況や生活状況などを確認し、それに適した学習の指導や支援を行う。

「特別支援教育の充実」…特別に支援が必要な生徒の特性や生活上・学習上の困り感を全職員が共有化し、それに応じた支援・指導を講じる。

5 具体的な取組

<「身に付けたい力・心」>

（身に付けたい生活の基本）「時を守り 場を清め 礼を正す」

（身に付けたい基礎的な力）「聞く（聴く）力 考える力 伝える力」

（身に付けたい心）「思いやりの心 他者を受け入れる心 やり抜く心」

（身に付けたい生活習慣）「起床時刻 学習時刻 就寝時刻」

（１）「知」＝学習指導 粘り強く学び続ける生徒の育成

～進んで取り組み、学ぶ楽しさを感じる授業の推進～

a 「問題解決型（課題解決型）学習」を取り入れた授業改善

→三条市授業スタンダードによる実践（「◎の学習問題」「見通し」「振り返り」のある授業）

b 単元確認テストの充実と評価と一体化した指導・授業実践

→単元ごとの指導計画を確認し、授業内容や指導方法を確認する教科部会の実施
適切な評価に向けたテストなどによる単元確認の確実な実施

c ICT 機器を積極的、効果的な活用

→学びに生きる、手段としての ICT 機器の積極的な活用
ICT 機器の有効活用のための職員研修の実施

- d プランタイムを有効利用した家庭学習習慣の定着
→プランタイム（終会(10分)後、5分間）での学年全職員による指導
- e 小中連携による9か年を見通した小中一貫した学習指導
→課題や指導計画・方法の共有を図る小中合同研修の実施
相互参観授業や出前・乗り入れ授業の実施

(2)「徳」＝自己有用感・肯定感の高い生徒の育成

～自他のよさを感じる共感的・支持的な人間関係の育成～

- a 豊かな心をはぐくむ「特別の教科 道徳」授業の充実
→確実な授業時間の確保と学年でのローテーション道徳の実施
外部人材を活用した「生き方講演会」の積極的な実施
- b 学級活動、生徒会活動など生徒主体の特別活動の推進
→学級の時間(学活)、学年の時間(学年朝会)、生徒会(生徒朝会)の時間の有効活用
班活動、学年委員会、修成会・専門員会活動の工夫
- c 小中連携や地域を活用した交流・体験活動を実施
→リトルティーチャー活動とそれ以外での児童生徒の交流活動の推進
「地域あいさつ運動」や地域の活動への参加や職業学習の充実
- d 教育活動全般での人権意識や規範意識の高揚
→小中合同「いじめ見逃しゼロスクール集会」の実施
人権擁護委員の講話など外部との連携
計画的な道徳や人権教育、同和教育の実施

(3)「体」＝主体的に自己を管理できる生徒の育成 ～自らの生活習慣の向上を図る取

- a 毎朝の健康観察・生活記録の確実な入力と振り返りの実施
→登校後のクロムブックへの入力と確認および指導・支援
小中合同（小5・6）による実施の推進
- b メディア利用などを含むSNS教育の充実
→SNSに関する授業の実施
- c 食育・眠育教育の推進
→小中合同学校保健員会の有効的な活用
給食指導（「食に関する教育」を含む）の充実
- d 生徒の主体性をはぐくむ部活動の充実
→部活動の目的・意義を十分に踏まえた指導（教師）※体罰など不適切な指導の禁止
明確な目標設定とその実現に向けた取組を実施（生徒、教師）